

はじめに

2004 年末、京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館（以下、人環・総人図書館と略す）の資料数千点が水に濡れた。原因は、老朽化した水道管の破裂であり、1 階部分を数センチにわたって覆った水は、床のひび割れを伝って地下書庫の資料にまで及んだ。

水に濡れた資料の復元は、いかに早く手当てを施すかにかかっているといっても過言ではない。幸い、多くの方々の迅速で手厚いご尽力により、ほとんどの資料が利用に供することが出来るまでに復元された。『バベルの図書館』編集委員会では今回の経験を、「記録」にとどめるために、また、この経験を関係者と「共有」するために、「特集：図書館浸水事故」を企画する運びとなった。研究科長、図書委員長、事務長、大学院生、事務職員、図書館員など、様々な形でご尽力いただいた方々からご寄稿いただき、多面的な特集を組むことができたのではないと思う。年度末の繁忙期に、ご執筆いただいた方々に、心より御礼申し上げたい。

人環・総人図書館は、旧制第三高等学校、教養部時代の蔵書を引き継ぐ図書館である。いわゆる貴重書は辛くも難を逃れたが、図書 3,575 冊、掛図 266 種 420 点という被災資料数は、本図書館の蔵書数の約 1 パーセントにあたるものであり、「資料の継承」をその使命のひとつとする図書館にとって、ダメージは計り知れない。

けれども「失う」だけではなく、確実に「得た」ものもあった。このことは、この特集号に散見される「貴重な体験」「得られたもの」「貴重な経験」などという言葉に表現されている。本特集が、この経験をプラスに転じる一助となることを願う。

末筆になりましたが、このたびの図書館復旧にかかわってくださった全ての方々に、厚く御礼申し上げます。

2005 年 3 月 15 日

呑海沙織

『バベルの図書館』編集委員長
人環・総人図書館参考調査掛